



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ウラミスジジミ 学名:*Wagimo signatus*



雄背面



雄腹面

名前のように翅を閉じて止まっているとき、翅裏に3本の線状の模様があるというのですが、実際には短いものも含めて3本以上の線があります。鳥取県の大山が採集地として有名であったためか、別名ダイセンジジミともいいます。翅表は青い紋のまわりを黒い紋が囲んでいます。雌は青い紋が小さくなります。

このチョウも、年に一度、梅雨時の雑木林に現れるゼフィルスの仲間です。

北海道から九州までいますが、カシワ、ミズナラ、ナラガシワ、コナラなどを宿主としているため、そのような樹種で構成される二次林で見られます。

表はムラサキシジミ、裏はアカシジミに似ています。表側の青い紋の大きさや裏面の白線の形には、個体変異があるほか、白線の形状には地域的な傾向もあります。

生態がわかるまでは採集しにくいチョウでしたが、生態がわかってからは卵を採集して、飼育することで標本が入手しやすくなりました。しかし、野外で成虫を見かけることはあまりありません。日中はあまり活動せず、夕方活発に活動します。

【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

